

サンパウロ大学への協定派遣（交換留学） 月例報告書（11 月分）

ブラジルでの生活が始まって、4ヶ月が経ちました。つまり、帰国まで残り1か月となりました。周りの留学生は2月に帰国する人がほとんどで、自分もそうすればよかったと少し後悔しています。留学前は、約半年間ブラジルにいれば十分と思っていましたが、今では留学期間を一年間にしてもよかったなとも思います。それぐらい文化も人も素晴らしい国です。せっかく慣れてきて楽しめるようになってきた頃に、帰国が迫ってきていると考えると寂しい気持ちになります。そしてまだまだ真夏は来ず、天気も不安定で、晴れても30℃超えたり超えなかったりするぐらいです。ブラジルと言えば常夏をイメージする人が多いと思いますが、私と同じような時期にサンパウロに来るなら折り畳み傘と薄めの長袖は必須です。これからの残り一ヶ月でどれだけ夏を満喫し、何回プールや海にいけるか楽しみです。

11月末で、大学の講義やテストがすべて終わりました。最終課題が一つ、期末レポートが一つ、期末テストが一つでした。テストは、言語学の難しい授業を履修していたのですが、留学生にも容赦ないくらい難しい内容でした。持ち込み禁止だったので、なおさら大変でした。評価基準や評価方法も他の USP 学生と同じなので、厳しい状況で不安しかありません。他の留学生の話を聞いていると、テストが持ち込み可やスマホ OK だったり、留学生に対して多少の配慮をする先生が多かったりで、授業選択を間違えてしまったのかもしれないと思いました。授業見学や履修登録期間で授業を見定め、先生としっかり話すことの大切さが分かりました。またレポート系の課題は、意外と書きやすいと思いました。日本語ほど敬語や丁寧な表現が分からないので、語彙数の幅は狭くなりましたが、なぜかポルトガル語の方が考えや気持ちの言語化がしやすかったです。これは勉強だけでなく、日常会話でもそう思います。話している言語やいる国によって、話し方や性格、服装までもが変わると実感しました。特に私は、服装の面で違いを感じることが多いです。日本にいる時は、夏にタンクトップやノースリーブが好きでよく着ていたのですが、友達は「自分は二の腕が気になって着られない」と言っていました。他にも、周りの目が気になって好きな服が着られない、夏でもジーンズや露出の少ない服装を選ぶ人は多いと思います。私自身も暑がりです、本当は日本でも短パンをたくさん履きたかったのですが、そこまでの勇氣はありません

でした。ブラジルでは、何も考えずに好きな服が着られます。誰も周りの見た目や意見を気にしていないからです。日常会話でも、他人の容姿や服装に関する話題はほぼないです。さすが自由の国だなと思います。他の日本人留学生と、「ブラジルで買ったり着たりしている服は、日本じゃ恥ずかしくて着られないね」と話したことがあります。露出が多いのもありますし、色や柄が目立つのもあると思います。少し悲しいですが、文化の違いだから仕方がないと思いました。

私は人一倍周りからの視線を気にしてしまう性格で、生きにくいと感じることが多かったのですが、ブラジルに来てとても楽になりました。ありのままにいれるのが、自信につながって、より自分を好きになれた気がします。だからこそ帰りたくないと思ってしまいます。12月は旅行の計画がいくつかあり、イベントも立て続けにあるので、精一杯楽しみたいです。

